（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　令和　４　年　３　月　９　日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204243		
法人名	株式会社広の島		
事業所名	グループホーム古の市		
所在地	広島市安佐南区古市３－５－３ （電話）０８２－８７７－１４１３		
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3470204243-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町　１番８号
訪問調査日	令和　４年　３月　９日（水）

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

・誰にとっても落着ける環境をつくり、こころのバリアフリーを目指します。
・行事などよりも食事や洗濯などの日常的な生活を支援することや、職員が安心して働ける環境作りに配慮して行きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当該施設は、マンションビルの２～４階を改築し、２階を施設の事務所、３～４階をグループホームとして使用している。食事は３食とも職員が献立を考え調理し提供している等手作り感が満載で、あたかも自宅で生活を継続しているようなアットホーム的な雰囲気がある。コロナ禍で地域との交流は困難なものの、終息後は地域との交流を積極的に再開すべく計画検討されており、利用者への面会は儘ならない状況であるも、利用者の笑顔の写真を家族にラインで送付する等創意工夫して喜ばれている。職員個々が、事業所の理念である「一人ひとりがさまざまな立場の人を理解し、思いやりの心をもって接遇する」を理解共有して、心のバリアフリーを実践される等落ち着ける環境作りに取り組んでいる。

（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　令和　４　年　３　月　９　日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204243		
法人名	株式会社広の島		
事業所名	グループホーム古の市		
所在地	広島市安佐南区古市３－５－３ （電話）０８２－８７７－１４１３		
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3470204243-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町　１番８号
訪問調査日	令和　４年　３月　９日（水）

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

・誰にとっても落着ける環境をつくり、こころのバリアフリーを目指します。
・行事などよりも食事や洗濯などの日常的な生活を支援することや、職員が安心して働ける環境作りに配慮して行きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	『誰にとっても落着ける環境を作り、こころのバリアフリー（一人ひとりが、身体が不自由な方や高齢者などさまざまな立場の人の事を理解し、思いやりのこころを持って接すること）を目指します。』との理念を念頭においているが、十分ではなく、どうしても職員の思考中心になって職員主体になっている事がある。	施設の理念である「こころのバリアフリー」について、入職時の研修で教養を実施し、趣旨の理解と理念の達成に努めている。理念の唱和や掲示はないものの、会議で理念にふれる話題が議事に上がる等職員皆で共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の会員になり、回覧板を持参したり、地域の施設や町内の行事に参加することがあるが、この１年は町内会行事も無かった事から日常的には交流出来ておらず、町民と利用者の間に距離はまだ埋められていない。	コロナ禍で地域行事は、ほぼ中止状態となり、地域との交流は困難な状態となっている。回覧板の回覧等を通じて町内の情報を得ている他、施設代表者が以前から町内会の班長を務め、班長会議に積極的に参加しており、会議を通じて町内会長と情報交換を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的に出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活の話題が中心になりやすく、意見をサービスの向上に活かしきれていない状況ではあるが、家族の意見を伺い、思いを少しでも反映出来る様にしている。消防署にも年１～２回の参加をお願いするも、参加は難しい様子。ここ最近はコロナウイルスの影響で開催は中止が続き紙面開催を行っていたが、１２月のみ会議を実施出来ている。２月より、蔓延防止等重点措置発令に伴い、再度紙面開催としている。	運営推進会議は、２ヶ月に１回開催しているが、昨年１２月を除き何れも書面会議となっている。会議には、家族と職員が参加している。コロナ禍で地域包括支援センター職員や消防署等の参加は困難な状況ではあるが、都度案内はされており、会議結果は地域包括支援センター等関係機関に書面報告がされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	法的な疑問点等がある時は市役所に連絡をして、質問したり、会議の報告等を行っている。運営推進会議への参加も減り、は年１～２回参加して頂きたいと思っている。	関係書類の提出や運営会議で出た疑問点等について、市役所等関係機関に連絡質疑して関係構築を図ると共に、アドバイスを受けた事項については、施設運営に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解はしているが、全職員への周知徹底は十分ではない。どこまでが身体拘束か理解して頂く為に、身体拘束適正化委員会を２か月に１回開催し、その折に研修資料として、テキストを小分けにして１～２枚づつ配布している。身体拘束同様に虐待も資料配布を行い、少しづつでも理解して頂ける様に努力している。夜間の防犯の目的で施錠を行なっている。玄関や窓に施錠は出来るだけ行わずに対応している。外へでたり、立位不可の自覚症状がなく、転倒の危険のある入居者の部屋にはセンサーを設置している。	身体拘束防止マニュアルに基づいて研修会を開催し、知識の向上に努めている。又、身体的拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催。事例に基づき検討し、その結果を職員個々の意見を含め会議録として作成保管している。	身体拘束についての研修や身体的拘束適正化委員会を開催していますが、職員全員に周知徹底する為には、研修の回数を重ねて、他施設の事例を上げて、職員で検討し、理解を深めて、身体拘束をしないケアを目指して頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	一部の職員が研修に参加している。施設内では虐待防止委員会の際に研修資料を小分けにして配布。職員間で職員、入居者の状態を話しあう程度である。気になった所は、施設長、管理者や気になった職員から他の職員に情報伝達して意識統一を図っているが思い込み等もあり、不十分な面を感じている。その都度話し合いながら対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	一部の職員は理解しているが全員は出来ていない。外国人社員も増えて来ている事から理解を得るまで繰返しの説明の必要があり、時間が必要と推測する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に出来るだけ理解納得を得られるよう努めているが、定期的では無いので利用者様家族も忘れられている。退所要件や支払いの延滞等は可能性が出てきた際、毎月の手紙や契約書の再確認で繰返し説明する様に心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者，家族等意見の反映 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり、運営推進会議の中で報告する機会を持っている。そこで出た内容を情報伝達し施設内で改善出来ればと思っているが中々内容が出て来ないのが現状。『言うと出ないといけなくなるかもしれない』と言う思い込みがあるものと推測している。勿論そのような事実は無い	コロナ禍でこれまで家族から主として電話や面会時に意見聴取をしていたが、最近ではラインを活用して意見聴取をする等工夫されている。面会を希望される家族には、１階の多目的スペースに間仕切りシートを設置する等工夫して、短時間に面会してもらい家族の要望に応えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	施設責任者として、管理者として職員の意見、提案などを聞き、反映に努めている。職員も思ったことを素直に言える環境づくりを目指している。	月１回開催のミーテング時に職員から意見聴取をしている。事務所ホールに掲示の職員の責務には、職員からの相談は管理者会議に報告の上、代表者自ら指示改善を図る事と相談は書面口頭でも出来ると明記され、意見が反映しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の家庭状況等に合わせて労働時間を配慮したり、各自がやりがいをもち働きやすい環境作りをし目指しているが、人員配置等の問題で不十分。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量にあわせて、必要であれば施設内でトレーニングを行ったり、職員同士でフォローしあえる環境を作っているが、研修に参加する機会は少なく、職員も拒絶する事が多く、不十分。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者と交流する機会をまだもてていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前に見学していただいたり、訪問するなど、信頼関係をつくる努力をしている。要望等に関しては身体的状況等で叶えられない事も多いが、可能な限り対応出来る様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	利用者の状況や家族の思いを聴いて信頼関係が作れるように努力している。費用や通院等についてなど、具体的な情報提供を十分におこなうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族や担当ケアマネージャー、利用していたサービス機関から、情報収集を十分に行い、入所前からホームの職員に情報提供をし、必要なケアや環境の検討を行い、受け入れ態勢を整えるようにしている。そして入所時の利用者の状況をみてケアを再検討し対応している。他のサービスについては医療保険の関係は可能なので、医師と相談し可能なレベルで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者をお客様として捉えず、家族の一員としてお付き合い出来る環境作りを志している。時には料理を教えて頂いたり、会話の中で人生の先輩としての考えを学んだりし、お互いに支えあえる関係が築けるように努力をしているが、介護度悪化等や、職員の姿勢が口調に現れている様に感じ、不十分。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の状況、環境に配慮しながら一緒に支えていく関係を築けるよう努めているが、御家族の理解が難しく、『施設入所したら施設に全てお任せ』との思いから共に御本人様を支合う関係構築は不十分なままの状態である。更にコロナウイルスが悪影響を広げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	希望時に電話や面会を受け入れる程度で、積極的な支援はしていない。最近はコロナウイルスの影響で、どうしても面会を希望される場合は場所を変え、風通しの良い場所で職員同席の元面会を行って頂いている。	以前は、家族の他友人等の面会や親族宅への外泊、馴染みの場所への家族同伴での外出もあったが、コロナ禍で現在は、家族の面会以外は無い状態である。３ヶ月に１回の割合で理美容の訪問を受け利用者が利用されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	互いの関係に配慮して孤立せずに関わりあえるよう支援に努めているが利用者個人個人の性格もあり、十分対応出来ている状況ではない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	必要に応じて継続的に関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めているが、把握した事に対して十分に対応できていない。職員本位では無く、本人本位で考える姿勢は職員にも継続的に指導している。	入所時に利用者、家族から聴取した思い出、場所、人、趣味、嗜好品、禁忌事項等を基に、その内容を職員間で共有し、利用者の介護サービス等ケアに役立たせている。	利用者に更に寄り添い、食事・買物・外出・入浴等、お一人お一人の思いを汲み取られる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、利用していたサービス機関からの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方心身状態などを総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	職員の話合いはしているが、家族や関係者から十分に意見を反映できていない。家族から介護計画についての具体的な意見が出にくく、意見の求め方に工夫が必要である。現在、『家族の意向』欄を空白にした介護計画を家族に送り、希望を伺うようにしているが、十分な回答は得られていない。現状をみて随時見直しをしているが、介護計画を十分に活用できていない。	利用者の日常観察に基づき、医師、看護職の意見を参考にして、介護計画作成担当者と介護職によるケアカンファレンスを行い６ヶ月毎に１回介護計画を作成し、見直しを図っている。利用者の状態の変化があった時は、都度介護計画を見直し実情に即した介護ケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日日々の状況を個別記録に記入し、また医師や看護師からの指示や援助が変更した場合、その他注意点などはノートにも記入し、職員全員が情報を共有し、その都度話し合いをしながら援助をするようにしているが、話合いの内容も一番肝心な表情等が抜けており、不十分。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院介助を行っている。又、医療連携体制をとり、介護と医療との連携をより円滑に出来るように努めている。最近はコロナウイルスの影響で通院以外は極力外出は控えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署には運営会議や消防訓練で助言指導して頂くようにその都度語りかけており消防の担当者も変わったが、『コロナウイルスの関係で参加しにくい状況です』協力が得られない状況が続いている。社会情勢的に考えても仕方のない事。地域の町内会も行事等を一切取りやめ、体制が整っていない状態が継続している。継続的に語りかけは行っていく		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	職員による健康観察は常時かかりつけ医に報告され、状態に合わせて薬が処方されている。定期往診や、異常時には時間外でも早期に対応できるように電話で報告指示をもらったり、必要に応じて通院介助等を行っている。	かかりつけ医については、月毎に内科２回、精神科、皮膚科、循環器内科、歯科各１回の往診があり、利用者の希望に添えるよう支援している。整形外科、眼科については職員が通院介助を行っている。夜間かかりつけ医とは電話対応が可能な体制があり、看護職の２４時間対応の体制も構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員も介護職員と同様の仕事をしており、互いに情報を共有し、看護職員は利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。又、医師とも連携を図り、随時適切な医療が受けれるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から協力医療機関と連携を図っていただき、スムーズな対応が出来るように努めている。又、入院先の病院にも定期的に訪問し、病院関係者との情報交換を試みるも、コロナウイルスの影響が大きく、以前の様に病院関係者と情報共有も行いにくくなっている。入院時退院時以外は情報共有を遮断されているケースが最近では大半を占める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族の希望に沿えるよう、協力医療機関と連携をとりながら、支援に取り組んでいる。看取りに対しての同意を頂いているが、利用者の状態に変化があった際、医師もそのままにはできず、入院となり、医療系施設への転院になるケースが大半。又、御家族様の看取りに対する理解が誤っており、早い段階でお話はするものの、望まれる御家族様は今の所ではいない。誤解を招き易い為、慎重に対応している。	入所時に家族等に看取りについて説明の上、同意を得て契約をしている。本人が重度化した場合、各職種職員によるカンファレンスを開催し、その結果を家族に十分に説明をしている。これまで同意をしている家族も終末看取りに関しては、最終的に入院治療を希望される為、看取りは行われていない状況である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、口頭で説明や話合いはしているが定期に訓練はできておらず、実践力が身についていない。基本的には消防局主催の研修は受ける様に指導や開催の調整を行っている。応急手当は状況に応じて看護師もしくは病院に受診するケースが大半通院時は施設責任者が行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	避難経路、避難場所、消火器の使用方法は定期的に訓練を行い、訓練に参加できなかった職員にも伝えて頂いている。地震水害時の訓練は、施設内で避難経路の確認等を中心に行っている。地域との協力体制はまだ十分ではない。	火災避難訓練と併せて土砂災害等の避難訓練を年２回、隣接の系列施設と合同で実施している。コロナ禍で消防署からの指示で利用者の実際の避難行動はなく、口頭説明のみとなっている。職員については、避難方法、避難ルート等実践に即した訓練がなされている。	
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないよう注意して対応し、人格の尊重を心がけているが、配慮が足りない事が多い。	利用者の人格尊重、プライバシー保護の観点から年１～２回の接遇研修を実施している。ここ数年日本語に不慣れな外国籍の職員が増加した事から、管理者が翻訳機を用いて外国籍職員の接遇研修を実施している。	認知症ケア・プライバシー保護・接遇について、研修の回数を増やし、職員に理解して頂き、利用者に対しての更なる配慮が適時出来る様になる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	利用者が自己決定できるようにゆっくりと一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にして、希望に沿えるよう努めているが、まだリビングに出てきたくなる環境づくりが不十分		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	重度化が進み、訪問理容が主体となっているが、本人の望む場合は個別に対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	入居者の心身の状態をみながら、出来るだけ入居者と一緒に行う様心がけているが、入居者の重度化に伴い、一緒に行う機会が少なくなってきている。又、重度化した利用者からの嫉妬もある。来年度若しくは再来年度から月に１回程度今の食費とは別に費用を徴収し、いつもより少し豪華な食事が提供出来る日が作れればと考えている。	利用者の経費負担軽減を目的に３食とも職員が献立を考え調理している。又、利用者の要望によってフライパンでお好み焼きを作り何れも利用者に喜ばれている。利用者によっては、刻みやミキサーでの食事にも応じている。利用者も調理や配膳、下膳等それぞれに見合った役割を実践し働く喜びを享受出来る支援もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量、排泄量を把握し、少ない方には本人の摂取しやすいものに変えるなどし、確保できるよう支援している。職員の思い込みが入り、中々理解されないケースも多々ある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の生活リズムに合わせ、全員が毎食後ではないが状態に応じて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ひとり一人の排泄パターンや習慣に合わせて、トイレ誘導をしたり、排泄介助を行っている。重度化が進んでいるが、只動きたくないだけの方もいらっしゃるので、定期的に職員と話合うも職員の思い込みも強く、オムツ→リハビリパンツ（Pトイレ誘導）への改善を試みているが、中々改善に持ち込めたケースは無い。職員は失禁＝排泄環境があっていないと勘違いされるケースが多い	個人記録に利用者個々の排泄パターンを記録し、職員全体で情報共有している。便秘等排泄が困難な利用者については、かかりつけ医の指導を受け、医師または看護職員により処置をしている。利用者のほとんどはオムツ使用であり、トイレ使用はほとんどないが、なるべく利用者がトイレで排泄が出来る様職員で誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方が非常に多く、水分や乳製品を積極的にとってもらったりしているが不十分である。改善の対策として各利用者ごとに『一〇日でどの薬をどれぐらい』と医師に決めて頂き実践を繰返している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週２回と希望日に入浴又はシャワー浴をして頂いている。拒否される事がある方が非常に多く、出来るだけ入って頂ける様支援を行っている。場合によって時間や日をかえても支援している。	週２回と希望日に入浴、又は、シャワー浴、清拭、足浴を行っている。車椅子の利用者については職員２人態勢で入浴支援をしている。入浴を拒否される利用者には、入浴日や時間帯、職員を変える等色々工夫しながら入浴誘導の支援を行っている。銭湯を希望される利用者については、家族の支援をお願いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。光や音に敏感な方もいらっしゃる為、その辺りは十分注意を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し、服薬確認、症状に変化がないか注意を払っている。又、誤薬防止の為、内服の前に必ず薬の袋に書いてある名前と本人を確認するよう努力しているが誤薬は多い。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	料理や編み物、歌など、一人ひとりの生活暦や好みに合わせて支援するよう心がけているが、入居者が重度化に伴い、行い方が分からなくなられた利用者が大半。職員が支援するがすぐに止めて閉ざしてしまう傾向にあり十分な対応が出来ていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や行事など、外出支援はここ最近コロナウイルスの影響で行えていない。再開を検討しているが、再々繰返して感染の波が強くなる。又、病院等も面会禁止が続いている様に施設でも不要不急な外出はまだ再開出来ていない。家族の協力体制も難しい。	コロナ禍以前は、２ヶ月に１回は外出支援を行っていたが、現在は行っていない。対策として施設内での風船バレー等のレクレーションを企画実施したり、ユーチューブで懐メロをかける等工夫して利用者のメンタルケアの支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を紛失したり、しまった所が分からなくなり、不穏となられる為、どうしてもと言う方以外は施設で立替えて対応している。必要な物も代理購入したり、近所のコンビニ等であれば職員が付添い対応していたが、現在はコロナウイルスの影響に伴い。立替で代理購入のみの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は希望者には、個人負担で便箋やはがきを購入して頂き、職員がポスト投函と言う方法を取っている。電話に関しては話す事を大切にされている利用者に関しては携帯電話を持参されている。掛ける際は居室で掛けて頂くと言うルールは作っているが、特にトラブルも無く皆様応じて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者にとって不快や混乱をまねくような事がないよう配慮をし、出来るだけ居心地よく過ごしてもらえるように家庭的な空間つくりを心がけているが、季節感は行事のものを時々飾る程度で工夫ができていない。共用空間づくりにも課題が多い。	外出が困難な事から、共有空間のカーテンを開放し、日光浴や窓からの眺望を楽しんでもらったり、各フロワーに季節の花を植えたプランターの設置や棚等に絵画、写真を掲示し、生活感や季節感を創出して居心地の良い共用空間作りに工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	コロナウイルスの影響でリビングより居室で過ごされる事が増えているが、個々に興味のある事を提供し、リビングで過ごされる様支援を行っているが無気力な利用者が大半となり、不十分。		

グループホーム古の市

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使われてたものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心がけているが、居室の広さに制約があるため、持参物を断る場合もある。	居心地の良い居室で生活が出来る様、テレビ、仏壇、化粧ケース、椅子、手鏡、家族の写真・手紙、ぬいぐるみ等利用者が使い慣れた物、好みの物を持ち込めるよう配慮支援を行っている。又、各利用者毎に、居室内の温度調節を職員で微調整する等居心地のよい居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	『今はこれをする時間』等入居者の動きを制限せず、出来る事を活かしていけるよう、入居者の心身の状態をよく観察して対応するよう心がけている。要所へ滑り止めや手すり等を設置したりと、安全に生活してもらえるように工夫しているが、設備上の問題もあり、限度があるので、十分ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	『誰にとっても落着ける環境を作り、こころのバリアフリー（一人ひとりが、身体が不自由な方や高齢者などさまざまな立場の人の事を理解し、思いやりのこころを持って接すること）を目指します。』との理念を念頭においているが、十分ではなく、どうしても職員の思考中心になって職員主体になっている事がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の会員になり、回覧板を持参したり、地域の施設や町内の行事に参加することがあるが、この１年は町内会行事も無かった事から日常的には交流出来ておらず、町民と利用者の間に距離はまだ埋められていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての取り組みが具体的に出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活の話題が中心になりやすく、意見をサービスの向上に活かしきれていない状況ではあるが、家族の意見を伺い、思いを少しでも反映出来る様にしている。消防署にも年１～２回の参加をお願いするも、参加は難しい様子。ここ最近はコロナウイルスの影響で開催は中止が続き紙面開催を行っていたが、１２月のみ会議を実施出来ている。２月より、蔓延防止等重点措置発令に伴い、再度紙面開催としている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	法的な疑問点等がある時は市役所に連絡をして、質問したり、会議の報告等を行っている。運営推進会議への参加も減り、は年１～２回参加して頂きたいと思っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解はしているが、全職員への周知徹底は十分ではない。どこまでが身体拘束か理解して頂く為に、身体拘束適正化委員会を２か月に１回開催し、その折に研修資料として、テキストを小分けにして１～２枚づつ配布している。身体拘束同様に虐待も資料配布を行い、少しづつでも理解して頂ける様に努力している。玄関や窓に施錠は出来るだけ行わずに対応している。外へでたり、立位不可の自覚症状がなく、転倒の危険のある入居者の部屋にはセンサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	一部の職員が研修に参加している。施設内では虐待防止委員会の際に研修資料を小分けにして配布。職員間で職員、入居者の状態を話しあう程度である。気になった所は、施設長、管理者や気になった職員から他の職員に情報伝達して意識統一を図っているが思い込み等もあり、不十分な面を感じている。その都度話し合いながら対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	一部の職員は理解しているが全員は出来ていない。この度家族より成年後見人の申請を行いたいとの申入れあり。こちらでは代理で行う事が出来ないので家族に支援しながら同時に職員にもこの機会に学ぶ良い機会と考えている。又、外国人社員も増えて来ている事から理解を得るまで繰返しの説明の必要があり、時間が必要と推測する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に出来るだけ理解納得を得られるよう努めているが、定期的では無いので利用者様家族も忘れられている。退所要件や支払いの延滞等は可能性が出てきた際、毎月の手紙や契約書の再確認で繰返し説明する様に心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者，家族等意見の反映 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	管理者や職員に直接表せる機会を設けたり、運営推進会議の中で報告する機会を持っている。そこで出た内容を情報伝達し施設内で改善出来ればと思っているが中々内容が出て来ないのが現状。『言うと出ないといけなくなるかもしれない』と言う思い込みがあるものと推測している。勿論そのような事実は無い		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	施設責任者として、管理者として職員の意見、提案などを聞き、反映に努めている。職員も思ったことを素直に言える環境づくりを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員勤務状況を把握し、職員の家庭状況等に合わせて労働時間を配慮したり、各自がやりがいをもち働きやすい環境作りをし目指しているが、人員配置等の問題で不十分。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量にあわせて、必要であれば施設内でトレーニングを行ったり、職員同士でフォローしあえる環境を作っているが、研修に参加する機会は少なく、特に職員の拒絶が激しく、不十分。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者と交流する機会をまだもてていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前に見学していただいたり、訪問するなど、信頼関係をつくる努力をしている。要望等に関しては身体的状況等で叶えられない事も多いが、可能な限り対応出来る様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	利用者の状況や家族の思いを聴いて信頼関係が作れるように努力している。費用や通院等についてなど、具体的な情報提供を十分におこなうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族や担当ケアマネージャー、利用していたサービス機関から、情報収集を十分に行い、入所前からホームの職員に情報提供をし、必要なケアや環境の検討を行い、受け入れ態勢を整えるようにしている。そして入所時の利用者の状況をみてケアを再検討し対応している。他のサービスについては医療保険の関係は可能なので、医師と相談し可能なレベルで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者をお客様として捉えず、家族の一員としてお付き合い出来る環境作りを志している。時には料理を教えて頂いたり、会話の中で人生の先輩としての考えを学んだりし、お互いに支えあえる関係が築けるように努力をしているが、介護度悪化等や、職員の姿勢が口調に現れている様に感じ、不十分。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の状況、環境に配慮しながら一緒に支えていく関係を築けるよう努めているが、御家族の理解が難しく、『施設入所したら施設に全てお任せ』との思いから共に御本人様を支合う関係構築は不十分なままの状態である。更にコロナウイルスが悪影響を広げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	希望時に電話や面会を受け入れる程度で、積極的な支援はしていない。最近はコロナウイルスの影響で、どうしても面会を希望される場合は場所を変え、風通しの良い場所で職員同席の元面会を行って頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	互いの関係に配慮して孤立せずに関わりあえるよう支援に努めているが利用者個人個人の性格もあり、十分対応出来ている状況ではない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	必要に応じて継続的に関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めているが、把握した事に対して十分に対応できていない。職員本位では無く、本人本位で考える姿勢は職員にも継続的に指導している。職員も少しづつではあるが理解の姿勢が見え始めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、利用していたサービス機関からの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方心身状態などを総合的に把握するよう努めている。個別に一人一人の過ごし方の要望に対応して行くと、閉籠りの利用者を増やしてしまう。思いが強すぎて閉籠り利用者が増加しているのが現状。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	職員の話し合いはしているが、家族や関係者から十分に意見を反映できていない。家族から介護計画についての具体的な意見が出にくく、意見の求め方に工夫が必要である。現在、『家族の意向』欄を空白にした介護計画を家族に送り、希望を伺うようにしているが、回答は得られていない。現状をみて随時見直しをしているが、介護計画を十分に活用できていない。記録の書き方の変更を検討したが、職員から反対を受けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日日々の状況を個別記録に記入し、また医師や看護師からの指示や援助が変更した場合、その他注意点などはノートにも記入し、職員全員が情報を共有し、その都度話し合いをしながら援助をするようにしているが、話合いの内容も一番肝心な表情等が抜けており、不十分。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院介助を行っている。又、医療連携体制をとり、介護と医療との連携をより円滑に出来るように努めている。最近はコロナウイルスの影響で通院以外は極力外出は控えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署には運営会議や消防訓練で助言指導して頂くようにその都度語りかけており消防の担当者も変わったが、『コロナウイルスの関係で参加しにくい状況です』協力が得られない状況が続いている。社会情勢的に考えても仕方のない事。地域の町内会も行事等を一切取りやめ、体制が整っていない状態が継続している。継続的に語りかけは行っていく		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	職員による健康観察は常時かかりつけ医に報告され、状態に合わせて薬が処方されている。定期往診や、異常時には時間外でも早期に対応できるように電話で報告指示をもらったり、必要に応じて通院介助等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員も介護職員と同様の仕事をしており、互いに情報を共有し、看護職員は利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。又、医師とも連携を図り、随時適切な医療が受けれるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から協力医療機関と連携を図っていただき、スムーズな対応が出来るように努めている。又、入院先の病院にも定期的に訪問し、病院関係者との情報交換を試みるも、コロナウイルスの影響が大きく、以前の様に病院関係者と情報共有も行いにくくなっている。入院時退院時以外は情報共有を遮断されているケースが最近では大半を占める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族の希望に沿えるよう、協力医療機関と連携をとりながら、支援に取り組んでいる。看取りに対しての同意を頂いているが、利用者の状態に変化があった際、医師もそのままにはできず、入院となり、医療系施設への転院になるケースが大半。又、御家族様の看取りに対する理解が誤っており、早い段階でお話はするものの、望まれる御家族様は今の所ではいない。誤解を招き易い為、慎重に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、口頭で説明や話合いはしているが定期に訓練はできておらず、実践力が身についていない。基本的には消防局主催の研修は受ける様に指導や開催の調整を行っている。応急手当は状況に応じて看護師もしくは病院に受診するケースが大半通院時は施設責任者が行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	避難経路、避難場所、消火器の使用方法は定期的に訓練を行い、訓練に参加できなかった職員にも伝えて頂いている。地震水害時の訓練は、施設内で避難経路の確認等を中心に行っている。地域との協力体制はまだ十分ではない。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないよう注意して対応し、人格の尊重を心がけているが、配慮が足りない事が多い。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	利用者が自己決定できるようにゆっくりと一人ひとりのペースに合わせ支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にして、希望に沿えるよう努めているが、本人の希望通りで対応すると居室への閉じこもりのケースが多い為、十分に出来ていない。まだ、リビングに出てきたくなる環境づくりが不十分		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	重度化が進み、訪問理容が主体となっているが、本人の望む場合は個別に対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	入居者の心身の状態をみながら、出来るだけ入居者と一緒に行う様心がけているが、入居者の重度化に伴い、一緒に行う機会が少なくなってきている。又、重度化した利用者からの嫉妬もある。来年度若しくは再来年度から月に１回程度今の食費とは別に費用を徴収し、いつもより少し豪華な食事が提供出来る日が作れればと考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量、排泄量を把握し、少ない方には本人の摂取しやすいものに変えるなどし、確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の生活リズムに合わせ、全員が毎食後ではないが状態に応じて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ひとり一人の排泄パターンや習慣に合わせて、トイレ誘導をしたり、排泄介助を行っている。重度化が進んでいるが、只動きたくないだけの方もいらっしゃるので、定期的に職員と話合うも職員の思い込みも強く、オムツ→リハビリパンツ（Pトイレ誘導）への改善を試みているが、中々改善に持ち込めたケースは無い。職員は失禁＝排泄環境があっていないと勘違いされるケースが多い		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方が非常に多く、水分や乳製品を積極的にとってもらったりしているが不十分である。改善の対策として各利用者ごとに『一〇日でどの薬をどれぐらい』と医師に決めて頂き実践を繰返している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週２回と希望日に入浴又はシャワー浴をして頂いている。拒否される方が非常に多く、出来るだけ入って頂ける様支援を行っているが不十分。場合によって時間や日、清拭や足浴等バリエーションを変えて試みているが効果が見られず不十分。家族の中には月１程度だが銭湯にお連れして行って頂いている家族もある。まずは入浴する機会を増加させる事から始めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援しているが、睡眠時間がかなり長い利用者様や日中夜間共に眠って過ごされる方へ御本人様は薬を飲まないと昔から眠れない等頼られる傾向にあるが、医師の指示で薬の飲む順番を変える等、体に悪影響が起きない様に薬に頼らない対応方法の検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し、服薬確認、症状に変化がないか注意を払っている。又、誤薬防止の為内服の前に必ず薬の袋に書いてある名前と本人を確認する様努力しているが誤薬は多い。利用者様は薬に頼られている方が多い為、健康に害（副作用）等を防止する為、体に害のない薬を処方して頂き依存されている方には提供を行っている。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	料理や編み物、歌など、一人ひとりの生活暦や好みに合わせて支援するよう心がけているが、入居者の重度化等もあり、能力はあるが行わない方が増え、気分転換の支援の十分な対応が出来ていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や行事など、外出支援はここ最近コロナウイルスの影響で行えていない。再開を検討しているが、再々繰返して感染の波が強くなる。又、病院等も面会禁止が続いている様に施設でも不要不急な外出はまだ再開出来ていない。家族の協力体制も難しい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を紛失したり、しまった所が分からなくなり、不穏となられる為、どうしてもと言う方以外は施設で立替えて対応している。必要な物も代理購入したり、近所のコンビニ等であれば職員が付添い対応していたが、現在はコロナウイルスの影響に伴い。立替で代理購入のみの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は希望者には、個人負担で便箋やはがきを購入して頂き、職員がポスト投函と言う方法を取っている。電話に関しては話す事を大切にされている利用者に関しては携帯電話を持参されている。掛ける際は居室で掛けて頂くと言うルールは作っているが、最近では電話の操作も分からず、電話する事が出来ない利用者が大半。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者にとって不快や混乱をまねくような事がないよう配慮をし、出来るだけ居心地よく過ごしてもらえるように家庭的な空間つくりを心がけているが、季節感は行事のものを時々飾る程度で工夫ができていない。又、コロナウイルスの影響で出来るだけ長時間の集まりを行わない様にしている為、共用空間づくりにも課題が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	コロナウイルスの影響だけではないがリビングより居室で過ごされる事が多い。居室閉籠りにつながってしまっている。レクリェーション等も企画はするものの興味は示されない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使われてたものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせる空間づくりを心がけているが、居室の広さに制約があるため、持参物を断る場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	混乱や失敗を防いで、入居者の動きを制限せず、出来る事を活かしていける様、入居者の心身の状態を観察して対応するよう心がけている。要所へ滑り止めや手すり等を設置したりと、安全に生活してもらえるように工夫しているが、設備上の問題もあり、限度があるので、十分ではない。		

Ⅴ　アウトカム項目（3階）			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
		○	③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
		○	④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
		○	③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

Ⅴ　アウトカム項目（4階）			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
		○	③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
		○	④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
		○	③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
		○	③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　グループホーム　古の市

作成日　　令和 ４ 年 ３ 月１０日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	・身体拘束をしないケアの実践	・禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取組む	・正しい知識の周知徹底 ・身体拘束について理解 ・玄関や窓に施錠しない ・職員の言葉遣いの見直 ・センサーの有効活用 ・薬の適正化	令和４年4月 ～ 令和５年3月
2	7	・虐待の防止の徹底	・高齢者虐待について学ぶ機会を持ち，利用者の虐待が見過ごされることがない様注意を払い，防止に努める。	・虐待研修資料の理解 ・思込みの払拭 ・職員の言葉遣いの見直 ・互いに言い合える環境 ・職員に情報伝達 ・意識統一	令和４年4月 ～ 令和５年3月
3	13	・職員の研修を受ける機会が確保できていない。	・法人内外の研修を受け、モチベーションを向上させていきたい。	・外部研修への参加 ・社内研修の拡充 ・施設内勉強会の実施 ・職員人数の充実	令和４年4月 ～ 令和５年3月
5	36	・利用者１人１人への言葉遣いに配慮にかける所がある。	・今まで、慣れ親しんできた呼び名や言葉遣いで安心して生活して頂けるように配慮する。	・家族からの情報収集 ・情報収集力の強化 ・個別対応力の強化 ・職員の言葉遣いの見直	令和４年4月 ～ 令和５年3月
6	23	・１人１人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めたい。	・今、何がしたい？何を望んでいるのか？を常に考えて利用者と接すれるようになりたい。	・情報収集力の強化 ・個別対応力の強化 ・利用者目線での思考力増加	令和４年4月 ～ 令和５年3月

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　グループホーム　古の市

作成日　　令和 ４ 年 ３ 月 １０ 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	・身体拘束をしないケアの実践	・禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取組む	・正しい知識の周知徹底 ・身体拘束について理解 ・玄関や窓に施錠しない ・職員の言葉遣いの見直 ・センサーの有効活用 ・薬の適正化	令和４年4月 ～ 令和５年3月
2	7	・虐待の防止の徹底	・高齢者虐待について学ぶ機会を持ち，利用者の虐待が見過ごされることがない様注意を払い，防止に努める。	・虐待研修資料の理解 ・思込みの払拭 ・職員の言葉遣いの見直 ・互いに言い合える環境 ・職員に情報伝達 ・意識統一	令和４年4月 ～ 令和５年3月
3	13	・職員の研修を受ける機会が確保できていない。	・法人内外の研修を受け、モチベーションを向上させていきたい。	・外部研修への参加 ・社内研修の拡充 ・施設内勉強会の実施 ・職員人数の充実	令和４年4月 ～ 令和５年3月
5	36	・利用者１人１人への言葉遣いに配慮にかける所がある。	・今まで、慣れ親しんできた呼び名や言葉遣いで安心して生活して頂けるように配慮する。	・家族からの情報収集 ・情報収集力の強化 ・個別対応力の強化 ・職員の言葉遣いの見直	令和４年4月 ～ 令和５年3月
6	23	・１人１人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めたい。	・今、何がしたい？何を望んでいるのか？を常に考えて利用者と接すれるようになりたい。	・情報収集力の強化 ・個別対応力の強化 ・利用者目線での思考力増加	令和４年4月 ～ 令和５年3月

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。